

東播支部だより

新年のご挨拶

東播支部長
石田真一

隊友会東播支部の皆様におかれましては輝かしい新春をおむかえのことと心からお慶び申し上げます。また、旧年中の支部活動への積極的参加とご活躍に對し感謝申し上げます。

昨年も、日常生活にコロナウイルスによる影響が極めて大きく、人と人が安心して合う・話すこともままならない状況が続きました。そのような中ですが、東播支部は屋外で行う行事は全て実行し多数の参加をいただき、支部活動が活発に継続できたことはひとえに会員の皆様の熱意と行動力のお陰と感謝申し上げます。

ワクチン接種のお陰かコロナ患者の発生もようやく下火になってきて、新しい年はようやく以

第76号
発行所
兵庫県隊友会
東播支部
0794-23-9666
発行責任者
鳴瀬茂樹



前の日常が取り戻せるかと思っていたところ、きわめて感染力が高いオミクロン株のニュースが飛び込んできてまだまだ安心はできないようです。我が国周辺は、中国の経済・軍事両面での拡大戦略とアメリカを中心とした民主主義国家との勢力争いが顕著となり、中でも我が国や台湾は中国から見た第一列島線に位置する戦略的に極めて重要な地域であり、その情勢や戦力基盤の見直しから自衛隊も大きく変革をすすめていると聞いており隊員の皆様も日々努力をしておられるところです。

このような環境の中、東播支部としては今年も会員相互の親睦・連携を更に図るとともに現職隊員への協力・支援事業を充実させるよう諸活動の検討・改善を図るよう努めていきたいと考えています。今年もご家族の皆様のご健勝とコロナ禍を克服してよい年にできるよう祈念しますとともに、会員皆様のご協力をお願いしまして挨拶と致します。

東播支部長 石田 真一

【支部及び関連事業実績】

◆令和3年

- ◇4月12日自衛官候補生入隊式
- ◇5月16日 県隊友会理事役会：中止、関係者への文書配布
- ◇5月22日 支部総会 中止
- ◇5月22日

サツマイモの植付

隊友会東播支部は5月22日（土）10時から12時の間で、滝野体育センター前の休耕地において、石田支部長他20名の会員の参加を得て、長さ約20mで5畝にサツマイモの苗を450本植付しました。

兵庫県は緊急事態宣言発令中であることから、マスク着用、消毒液の準備、体調不良者の参加見合わせなどを事前に連絡し万全の態勢で行うことが出来ました。

植付場所については、昨年度まで借用させて頂いた場所を地主が宅地として売却された為に新たな場所の確保から準備を進めることとなりましたが、大山理事の計らいで休耕地となつている田んぼの跡地を借用することが出来ました。

今年は約3週間早く梅雨入りし全国各地で大雨をもたらしており、植付前の2日間も大雨であつたことから当日の畑は十分すぎるほどの水を含んでいましたが、



天気も良く和気あいあいとした中で植付を終了することができました。

今後のコロナウイルス感染症の動向にもありますが、東播支部唯一の現職隊員との交流事業として、10月の収穫時期には現職隊員及び隊員家族と共に盛大な収穫祭を行うことが出来るよう成長を見守り大きなサツマイモを育てていきます。

記事編集 細貝事務局長

◇5月29日 自衛官候補生修了式：来賓を招かずに行う
 ◇5月30日 青野原駐屯地創設45周年記念行事：中止
 ◇6月13日 県隊友会定時総会：中止、文書配布

◇7月1日 新隊員後期教育入隊式：来賓を招かずに行う

◇7月3日 支部理事役会

令和3年7月3日10時から青野原駐屯地本部隊舎第二会議室において今年度初の支部理事役会を、県事務局の小林一吉様をお招きして会議を開催しました。

小林様の参加目的は、現職自衛官の転勤に伴う隊友会の引越支援事業の説明でありましたが、併せて、県隊友会の総会が中止となり本部表彰及び県の会長表彰が行えなかったことからそれぞれの賞状を持参して頂きましたので、事前調整はしておりました。前年度は、本部表彰受賞者である堤理事、県会長表彰受賞者である細貝事務局長に賞状の伝達を行って頂きました。

東播支部においても、支部総会開催できず見送っていた原田理事への表彰式を行いました。

その後小林様から引越支援事業についてご説明と参加理事役員からの質問に分かり易く回答頂き、本事業に対して安心して取り組むことが出来る体制作りを推進することが出来ました。

せつかくの機会であることから、小林様には会議の終了まで参加いただき、会務の状況、支部の雰囲気について体感して頂くことができました。

会議終了後の感想からは、「非常に活発な会議をされており、頼もしさを感じました。忘年会のお話も出ており、是非参加して皆さんとお話してみたいですね。」と賛辞を頂くことが出来ました。

今後支部長を核心として、理事役員全員で盛り上げていけるよう努力することは勿論のこと、県隊友会との連携も今まで以上に密接にすることで、抜け目のない支部の活動が出来るのではと感じることが出来た貴重な会議の場となりました。事務局長 細貝 寛徳

◇7月6日 青野原駐屯地表敬訪問 支部長以下3名

◇7月25日 慰霊碑清掃奉仕及び慰霊行事

隊友会東播支部は、令和3年7月25日(日)支部長 石田真一他26名をもって青野ヶ原演習場に建立されている殉職隊員慰霊碑の清掃・慰霊行事を行いました。

(青野原演習場の慰霊碑は姫路駐屯地から砕石等を積んで演習場整備作業に向かう際トラック横転による事故で亡くなられた6名の隊員を追悼したものです。)

当日は朝5時30分から草刈り機や剪定鋏により慰霊碑周辺の除草及び垣根の剪定を行い、その後、お寺の住職で支部理事役でもある高倉様に読経していただき会員の焼香も行い無事慰霊行事を終了しました。

その後、加西市にある海軍航空隊鶉野飛行場跡地に建立する戦没者の祈念碑周りの除草等を行い、演習場における追悼と同様に会員住職による読経を唱えて戦没者の追悼を行った。

飛行場跡地は平成28年6月まで、青野原駐屯地業務隊が管理する演習場として各種訓練を行ってきた場所であり、東播支部の会員は少なからず思い出があります。また、海軍航空隊の飛行場滑走路のほとんどが今日まで現存する旧軍史跡は国内にはないため、現在史跡公園として加西市をあげて整備を行っています。

当初、隊友会東播支部は青野原駐屯地業務隊が管理する演習場に関する慰霊碑等の清掃の一環で始めた事業でしたが、加西市に払い下げられて以降も、戦没者追悼の志を胸にこの祈念碑周りの清掃は継続して行っています。

ここで簡単に姫路海軍航空隊鶉野飛行場、川西航空機姫路製作所鶉野工場跡を紹介します。

第二次世界大戦の戦局が悪化しはじめた頃、優秀なパイロットを養成するため、昭和17年に着工し、昭和18年に完成した旧日本海軍の飛行場でした。

川西航空機鶉野工場では、姫路製作所で生産された局地戦闘機



「紫電」「紫電改」が分解移送され、それぞれ486機、44機が鶴野で組み立てられました。昭和20年には神風特別攻撃隊「白鷺隊」が編成され、沖縄戦のために4月6日に初陣出撃し、前途有望な若者が大空に散っていきました。終戦までのわずか2年に満たない時間の中で、国防の為青春をかけた多くの若者の姿があつたのです。

その歴史を後世に語り継ぐ役割として鶴野平和祈念の碑苑保存会（2016年8月一般社団法人化）が4つの活動方針①「白鷺隊」戦没者等の慰霊顕彰、②鶴野飛行場に関する調査研究、③鶴野飛行場に関する記録の保存と継承、④（仮）加西市鶴野ミュージアムへの支援』をもとに、以下の取り組みをおこなっています。

1999年10月に祈念碑の建立、毎年姫路海軍航空隊関係者を招聘して祈念祭を開催（節目の年には、海上自衛隊阪神基地隊及び青野原駐屯地第8高射特科群から支援も行われてきました。）、2014年10月に資料館が開設され、現在、震災用備蓄倉庫に紫電改の実物大模型も展示されています。またミュージアム建設検討委員の方々により訪れる方々に戦争遺跡のありようについてガイドも行われて

います。特に平和の願いを後世に伝えるため、中学生等の見学習ガイドを積極的に行なわれています。

東播支部は、現在計画されています加西市鶴野ミュージアム建設や平和祈念碑の移設が完了したならば、新型コロナの状況を鑑みながら令和4年度のイベントの一つとして、姫路海軍航空隊鶴野飛行場見学を計画し、新たな史跡公園としての門出をお祝い・確認したいと考えています。 事務局長 細貝 寛徳



◇8月5日 駐屯地盆踊り大会
来賓を招かず花火の実施
◇9月28日 新隊員後期教育修了式

◇10月23日 サツマイモ収穫祭 東播支部会員と現職隊員・家族との交流事業

隊友会東播支部は10月23日（土）朝9時から加東市滝野の借用地においてサツマイモの収穫祭を行った。

当日は、関東では冷たい北風が吹いたようですが、加東市は天候に恵まれ行事を開催することが出来ました。

参加者は石田支部長他隊友会会員23名、現職隊員28名・隊員家族55名となり、合計106名の参加者で盛会のうちに終了することが出来ました。

参加した子供達が驚くほどの大きな芋も多く出来ており、夢中で芋ほりを楽しんでいただくことが出来ました。

今年は、借用地の一部で隊友会会員が里芋を栽培しており、その収穫も併せて行い、参加した支部会員・現職隊員に配布して喜んでいただきました。

今年は昨年までの場所が借りられず、急遽場所探しの結果、広い休耕地に場所を変更し、準備から大変苦労しました。追い打ちをかけるように3度のイノシシ被害を受けました。急遽イノ

シシ除けの柵を設置、定期的な除草、つる上げ作業を近隣の会員が主体となつて行い何とか収穫に至りました。

東播支部にとつては年に一度の現職隊員との交流事業であり、隊員・家族の中には毎回楽しみにしてくれる者も多く、年々参加者が増えている状況です。

また、今回の参加者に今年度で退職する現職隊員も含まれており、隊友会を希望するよう勧誘も行うことができました。支部としてこの行事を今後も主要行事の一つとして継続していきたいと思ひます。

事務局長 細貝 寛徳





◇11月7日 歴史ウォーク
 (小野市 国宝 浄土寺)
 隊友会東播支部は、11月7日
 (日)10時から山口理事役の計画
 で兵庫県小野市にある国宝 浄
 土寺の見学を石田支部長他16名
 で行いました。
 秋晴れの晴天の下、ボランティア
 アガイドの内藤様の説明を受け
 ながら約八百年前の鎌倉時代初
 めに建立された浄土堂(国宝)
 は桁行3間(約18メートル)、



梁間3間、単層、屋根宝形造、
 本瓦葺の堂々とした建物で奈良
 の東大寺南大門と並ぶ大仏様
 (天竺様)建築を代表する建物
 です。堂内の国宝阿弥陀如来は、
 高さ5.3m(須弥壇を含めると
 7.5m)もあり天井に届く
 ほどの高さに感動を覚えるのと
 もに、優しく見下ろしてくれる
 お顔はやさしさと安心感を抱か
 せてくれました。
 この寺院の特徴としては、東
 向きのお堂で屋根が直線的で外
 観は低いように感じられますが、
 堂内は天井を張らない化粧屋根
 となっており、堂内の中央部に
 名仏師 快慶作の巨大な三尊立
 像が立っております。



背面の戸は格子戸で、夏場は16時頃、冬場は15時頃、西日が堂内に光が反射して巨大な三尊立像が雲に乗って浮かび上がっているように見えることから西方浄土から迎えに来る「御来迎」の姿を実際に見せようとしています。その最高の時期が彼岸のころであると伺いました。

また、敷地内には鐘楼、浄土寺の鎮守社である八幡神社、薬師堂、開山堂があり、裏の山手には約20分から30分かけて回ることができる四国八十八か所巡り（お地藏様）を楽しむことができます。

寺院散策等に興味がおりの方は是非足を運んで見られてはどうでしょうか。

事務局長 細貝 寛徳

◇11月20日 支部忘年会

東播支部はコロナの影響が減少した機会を捉え、東加古川の弁慶にて忘年会を開いた。支部長他13が参加し、コロナで翻弄された1年を振り返るとともに、各種行事を振り返り、来年に向けた反省と労を分かち合いました。特に元曹友会長の空中氏、県事務局から小林事務局長、中筋事務局にも参加頂き、県本部との交流も図れる良い機会となりました。

事務局長 細貝 寛徳

◇12月3日 予備自衛官招集訓練 参加者激励 激励品贈呈を分駐所長に依頼

◇12月5日 第8回小野ハーフマラソン大会支援

隊友会東播支部は、2021年12月5日小野市役所前を発着とする第8回小野ハーフマラソン大会に石田支部長他15名がスタート・ゴール周辺のコースへの応援者侵入防止、ランナーのスタート位置等での走者間隔の1m保持、ハーフ完走者等へのマスクの配布、完走者へのドリンク配布の支援を行いました。

昨年は大会を実施できませんでしたでしたが、新しく出来上がった市役所も威風堂々としていてその前をスタート・ゴールとして盛大に開催されました。当日の気温は10度以下で天気も良く、風もなく、絶好のマラソン日和となり、ハーフ参加者は約3600名とコロナの影響もあり定員を少なくしましたが、小学生の1・5Km、中学生・一般の3Kmと盛会のうちに終わったものと思います。

蓬莱アナウンサーの司会の元、大会会長の元阪神赤星氏や大会アドバイザーの狩野氏、チャリテイランナーとして阪神タイガースの原口選手、俊介選手、藤本コーチ、濱中氏、オリックスから中川選手が、2020年



13時の支援終了まで立ちっぱなしで、ランナーの応援等もしながら結構疲れを感じましたが公益社団法人として、隊友会の知名度の向上は元より、地域の大会を盛り上げる事、大会に参加したランナーに気持ちよく帰っていただけること、来年もまた参加してもらいたい気持ちで支援しました。

また、来年の開催が楽しみなところではありますが、例年どおりの支援者では高齢化も進み、今後は若い会員の参加も促して行きたいと考えています。

事務局長 細貝 寛徳

パラリンピックトライアスロン銀メダリストの宇田秀生選手、また、北京オリンピック5000m出場、元1500m日本記録保持者で小野市出身の小林祐梨子さん、2018年ジャカルタアジア競技大会 マラソン銀メダリストで小野市出身の野上恵子さんがゲストランナーとして大会を盛り上げていました。

8時30分集合して市役所担当者による説明を受けてそれぞれ、の持ち場に移動して支援を行い、



◆令和4年

◇1月7日 駐屯地成人式 支部長参加

◇1月14日 新春互礼会 来賓を招かず縮小して実施

◇1月22日 支部理事役会 駐屯地広報館

◇2月13日 支部長会同、理事役会：中止、文書配布

◇3月3日

現職隊員への感謝状贈呈

隊友会東播支部は、兵庫県隊友会に対し、青野原駐屯地元曹友会長 空中幸生曹長の感謝状を上申していたところ、令和4年3月3日（金）に兵庫県隊友会会長 小川祥一様から青野原駐屯地 第8高射特科群長室において贈呈式が執り行われました。

受賞した空中幸生曹長は曹友会長上番時期に隊友会東播支部が毎年行っているサツマイモ収穫祭において、隊員家族の参加者は30名程度で推移していたところ、いきなり100名前後の参加者を募り、隊友会と現職隊員・家族との交流を盛り上げるとともに隊友会の事業を現職隊員は元よりご家族に周知することとができるきっかけ作りに多大の貢献をしてくれ、その流れは現在も継承されていることに對する功績として表彰されており、

3月29日で退官を迎える前に感慨深い行事を執り行つて頂いたと喜んでくれています。

また、空中曹長は駐屯地陶芸部に所属し、駐屯地記念行事における記念品の作成や中部方面総監部等他部隊から依頼される陶器等の作成も手がけており、中部方面隊内でも重宝される存在であることは駐屯地内外で周知されている隊員です。

受賞式には、久守直紀青野原駐屯地司令及び県の事務局長である小林一吉氏のほか東播支部から支部長 石田真一氏も参加同席しております。

受賞式終了後の駐屯地司令表敬では急ぎよ空中曹長にも同席していただき会長自ら隊友会の活動報告やPRを含め隊友会の紹介等終始なごやかに懇談して終了されました。

当日には県の事務局からもご連絡を頂き、しばらく現職隊員に對する表彰を行つてこなかったが、目に見える連携の場として非常に有効であることから、今後それぞれの支部から各部隊に確認し、功績内容を聞いて、該当する隊員がいれば積極的に上申して頂き、表彰につなげていきたいとの発言もあり、兵庫県隊友会として新たな幕開けとなる予感を感じさせてくれる行事となったこととして紹介します。



（左から）駐屯地司令 小川県会長
空中曹長 県小林事務局長
石田支部長

【支部役員の変更】

理事役に指定する

桑原 博（加西市）

【受章】

第36回危険業務従事者叙勲
受章おめでとうございます
瑞宝双光章

小西池 守（西脇市）
細貝 寛徳（加古川市）
三島 亮一（加古川市）

【受賞】

受賞おめでとうございます

▽本部長表彰

堤 勝行（高砂市）

▽県会長表彰

田坂 久美子（神戸市）

高倉 慧喜（加西市）

細貝 寛徳（加古川市）

▽支部長表彰

原田 剛（三木市）

和久井 勇人（小野市）

【訃報】

謹んでご冥福をお祈りいたします

古川 博樹（66）

令和3年2月22日

中川 正義（88）

令和4年2月23日

【新入会員紹介】

川居 健彦（加古川市） 1補処東京

平成25年3月31日退官

喜和田 全（小野市） 8高群

令和3年8月27日退官

高松 毅（西脇市） 8高群

令和3年11月28日退官

長引くコロナまん延。息苦しい世情にあっても、現職隊員への感謝状贈呈などの明るいニュースは活気を与えてくれます。多種多様な投稿をお待ちしています。

加古川市野口町北野二二七一九二

aiken-reo2-24@bb.banban.jp

鳴瀬 茂樹